

大隅河川国道工事安全大会

労災ゼロを誓い合う

16年度「大隅河川国道工事安全大会」が13日、鹿屋市のホテルさつき苑で開かれた。10月の労働安全衛生週間に合わせて大隅地区の建設業者（会長・長井義樹大隅河川国道事務所長）が参加して、安全への取り組みとさらなる労働災害ゼロを誓い合った。主催は、九州地方整備局大隅河川国道事務所安全対策連絡協議会（会長・長井義樹大隅河川国道事務所長）。



受発注者全体で無災害を——と挨拶する長井所長＝鹿屋市のホテルさつき苑で

冒頭、長井会長が「この協議会は、工事の安全施工を通して工事の円滑な遂行を目的として発足されました。無災害に向けて会社や工事関係者と発注者を含む全体で取り組んでいかなければなりません。今後も、より一層の事故防止に協力をお願いします」と挨拶した。

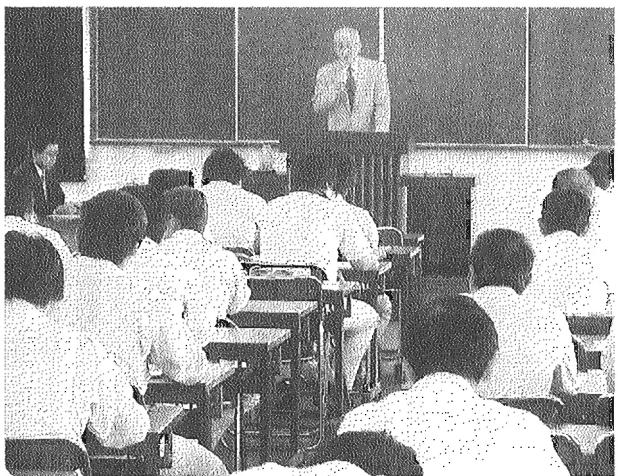
副産物実態調査の説明も

県森林土木協会肝属支部（久木田徳二支部長）は13日、鹿屋市の肝属建設会館で16年度森林土木技術者研修会を開き、支部会員35社から現場代理人ら69人が熱心に受講し、専門的な技術を学んだ。

冒頭、久木田支部長（久木田組）が「毎年実施しているこの研修会は、森林土木事業の多様化に対応するため技術者を育成するために実施さ

・よもやま話」と題し、それぞれ講話を行った。このあと、16年度の新役員紹介と16年度国土交通行政功労者表彰者紹介ののち、井元幸司大隅河川国道事務所技術副所長が事故事例を挙げながら「安全対策における留意事項」を訴えてさらなる安全を促した。

16年度国土交通行政功労者は次の通り。
工事部門・局長表彰＝坂元組▽同・事務所長表彰＝齊藤建設（株）山佐産業（株）（株）林組（株）野添土木▽安全施工部門・事務所長表彰＝丸福建設（株）▽優秀現場代理人部門・局長表彰＝野下雄二（齊藤建設（株））



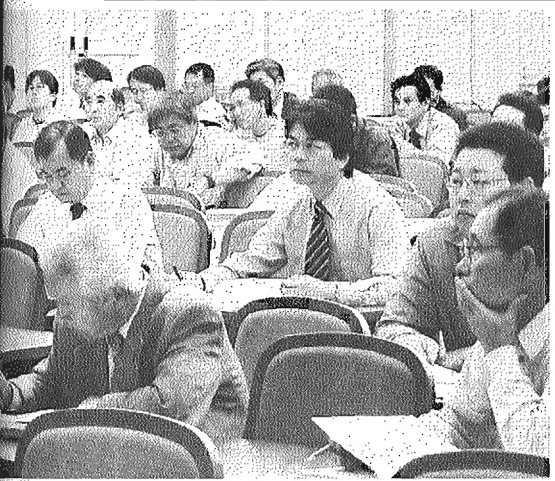
研修を今後の現場で役立てて——と挨拶する久木田支部長＝鹿屋市の肝属建設会館で

は終わります。台風災害での復旧が3件ほどあります。特に事故のないよう安全第一をお願いいたします」と述べた後、研修に入りました。午前中は、学科研修があり、森林土木課長や技術管理係、工事監査の職員らがテキストを使って管内森林土木事業概要及び注意事項等、積算基準の改正と建設リサイクル法や建設副産物実態調査について講義。

電気主任技術者実務講習会

事業動向踏まえ解説

九州電気保安協会は13日、鹿屋市の県市町村自治会館で16年度電気主任技術者実務講習会を開き、参加者は電気事業における最近の動向や高圧



真剣に聴講する参加者＝鹿屋市の県市町村自治会館で

自家用電気工作物の波及事故防止などについて深く学んだ。電気主任技術者ら約120人が参加した会では、初めに九州経済産業局資源エネルギー環境部電力安全課の生島敬二課長補佐が、電気事業法の一部改正を踏まえた最新の事業動向について、「国が法人を指定する仕組みが廃止され、外部委託の拡大が実現。安全上問題のある場合、国は外部委託承認を取り消すことが可能となった」などと説明した。

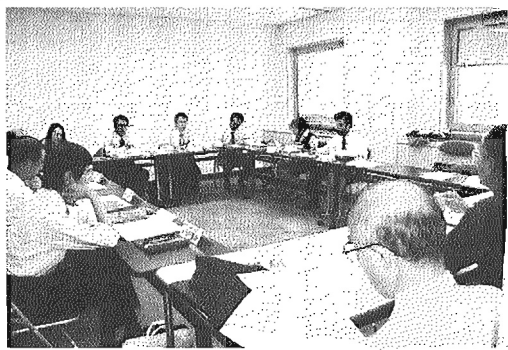
また、同協会鹿屋支部の芝原雄二技術センター長は高圧自家用電気工作物の波及事故防止について解説。「情報通信ネットワークの構築により、事故を未然に防止する高

研修を行い、林地荒廃防止の肝属郡串良町の現場を止事業で国基建設（株）施工一視察した。

受入れ体制や日程協議

来月28日から本県訪問

本県と友好関係にある「かごしま建築文化と技術の交流推進協議会」の実行委員会が13日、県庁で開かれ、11月28日から12月1日の4日間にわたって本県を訪問する韓国の建設業関係者らの受け入れ体制や日程などを協議した。



交流の在り方などを話し合う委員ら＝鹿屋市の県庁で

その後、事務局から今後の交流活動の円滑化を図るために、協議会の構成団体を設計・施工・木造の3部会に分けることなどを打診した。最後に韓国側の滞在期間中のスケジュールの説明があり、歓迎式などへの出席を促した。

く、一瞬の停電が社会に与える影響は計り知れない。事故防止については保護装置の重要性を再認識することが必要」などと述べた。

同協会の政所一宇鹿屋

各メーカーの商品紹介 停電事故防止に一役



同日、場内に設置された展示会場では、電力合理化を推進するデマンド監視システムや高圧停電事故を未然に防止する高

大村報徳学園
11日付けの南日本新聞「ひろば」欄に、県建設業協会宮之城支部青年部（松田祐二部長）が5日に行った奉仕作業へのお礼が載った。投稿者は大村報徳学園（薩摩郡宮之城町）の吉村鐵之助副園長。掲載を知らせるFAXが吉村副園長から川内支局に届いた。「本当にありがとうございました。どのような方法でお礼を申し上げますか

宮之城支部青年部の奉仕活動

南日本「ひろば」欄でお礼



がとつて「私の働く福祉施設に大勢で労力奉仕に来てくださいました。当初の計画にあれもこれも追加しておりました。午前中の予定で来てくださったのですが、夕方までかかってしまいま

した。申し訳なかったです。防護柵、道路の改修、草刈りまでできました。本当にありがとうございました。本当にありがとうございました。（中略）お互いの支え合い、助け合いで明るい社会が形成されることを願いながら、ボランティア活動の大事さをあらためて考えているところで」と記した。

人生の大先輩からの愛情に満ちたお礼の言葉は、見返りを期待しない奉仕活動ではない